

鹿島鉄道線事業者公募審査結果公表

本日は、お忙しい中、鹿島鉄道線の事業者公募審査結果の記者会見にお集まりいただきまして、ありがとうございます。只今より、審査結果の公表を行ないます。

鹿島鉄道線の存廃問題につきましては、11月19日に開催されました第3回鹿島鉄道対策協議会において、対策協議会として6.5億円の支援を提示しましたが、結果として鹿島鉄道株式会社の撤退が表明されました。

対策協議会としては、鉄道存続へ残された選択肢として、事業者公募の実施を決定し、11月27日から12月11日まで応募者の募集を行いました。

応募者については、すでに皆様にもご案内のとおり、有限会社トラベルプランニングオフィス、「鹿島鉄道」存続再生ネットワークの2者から応募があり、12月17日に応募者によるプレゼンテーションを行い、その後幹事会等による審査を経て、今回の結果に至っております。

なお、審査にあたっては、鉄道の設備計画、運行計画、要員計画などの分野、安全性や収支採算性に関わる分野、需要予測、交通ネットワーク形成、利用者ニーズ、地域支援等、主として総合交通体系に関わる分野に実績をもつ専門家にアドバイザーをお願いし、また、鹿島鉄道株式会社のご意見もお伺いしながら今回の結果に至ったことを申し添えます。

それでは、結果の公表について申し上げます。

今回の2者の提案について、慎重な審査を行いました。誠に残念ながら、いずれの提案についてもご期待に沿うような結果とはなりませんでした。

その理由としましては、まず、それぞれの応募者からの提案について、採用できかねる部分があったこととございます。

その主な内容については、各応募者にはそれぞれご通知申し上げますこととなっておりますが、提案内容については、それぞれ独自のノウハウ等公表いたしかねる部分もございますので、ここでは公表を差し控えさせていただきます。

また、これは、両者に共通することでございますが、提案内容では自治体として支援上限として定めた6, 5億円を越える負担が生じる可能性が高く、鉄道の安定した継続を担保できない可能性があったことも理由の一つにあげられます。

また、2者が引き受ける前提として鹿島鉄道株式会社に対して、鉄道用地、鉄道施設などについて無償で譲渡、あるいは無償貸与していただきたいこと、新事業者が運行開始できるまでの間、鹿島鉄道株式会社に運行を継続していただきたい事の2点について、要請をおこないました。

この2点について、鹿島鉄道株式会社に協力をお願いしたわけではありますが、鹿島鉄道の財政状況などから、鉄道施設を含む保有資産の適正な譲渡により、早期に債務を弁済していく計画があること、また、短期間とはいえ、老朽化の進んだ保安設備や車両等を抱え、運行の安全を確保するには補修や点検に相当の時間と費用を要すること、さらに、運転士などの鉄道事業員は鹿島鉄道線廃止と同時に出向元の関東鉄道株式会社が引き受け先となる計画があることなどの理由により、応じられない状況にあるという回答をいただいております。

これについては、鹿島鉄道株式会社および関東鉄道株式会社という、一民間企業としての見解として、尊重したいと思います。

以上のことを総合的に判断し、誠に残念ではありますが、いずれの提案についても採用いたしかねるという結果となったわけでございます。

最後に、鹿島鉄道にかかる今後の方針ですが、冒頭に申し上げたように、公募は鹿島鉄道存続のための最終手段として実施したわけではありますが、残念ながらうまくいきませんでした。

一方で、代替バスの検討協議もぎりぎりのところまで近づいており、これ以上鹿島鉄道の問題を引き延ばすと、来年4月1日以降の市民の方々の足がなくなってしまうというおそれがあります。

このため、本日をもって、鹿島鉄道の存続は断念したいと思います。

これまでお世話になった方々、特に公募に応じていただいた2団体に対して、厚く御礼を申し上げつつ、誠に残念ではありますが、鹿島鉄道の存続活動については、本日をもって打ち切りたいと思います。

本当にありがとうございました。

なお、代替バスの協議については、今後速やかに行っていきたいと思います。

以上で、私からの公募結果公表についてのコメントといたします。